

2017年3月期第2四半期 決算説明会

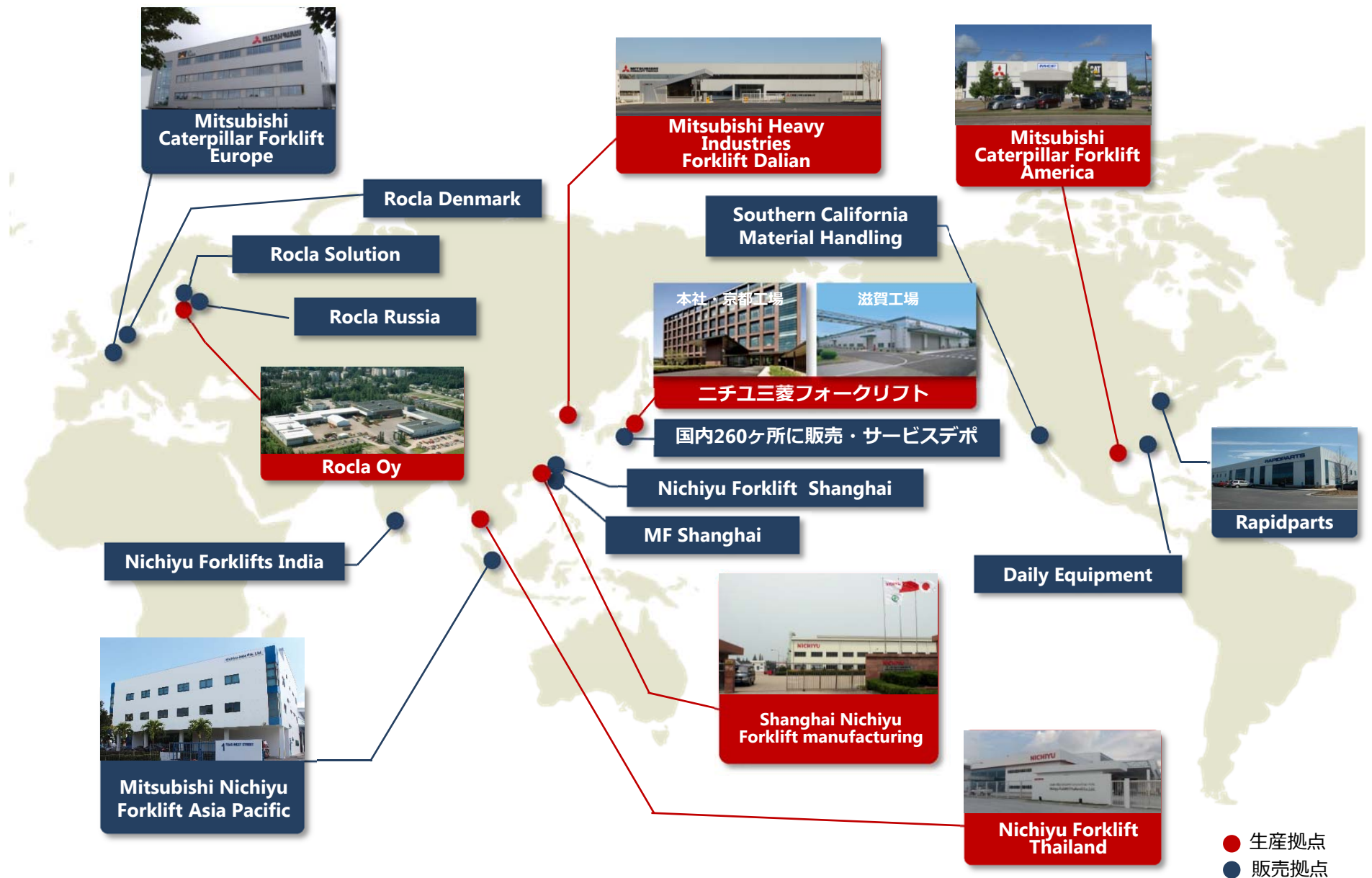
2016年12月8日

ニチュ三菱フォークリフト株式会社

会社概要

商 号	ニチユ三菱フォークリフト株式会社 (英文名：Mitsubishi Nichiyu Forklift Co.,Ltd.)
本社所在地	京都府長岡京市東神足2丁目1番1号
設 立	1937年8月
資 本 金	48億90百万円（2016年3月31日現在）
事 業 内 容	バッテリーフォークリフト、エンジンフォークリフト、搬送用ロボット、自動倉庫、WMS※ 等の物流システム商品等の開発・設計・製造・販売 ※ WMS：ウェアハウスマネジメントシステム
事 業 所	【国 内】京都・滋賀 【海 外】米国 Houston,TX（テキサス州） Peral,MS（ミシシッピー州） Grand Rapids,MI（ミシガン州） PicoRivera,CA（カリフォルニア州） 欧州 オランダ・フィンランド 中国 大連・上海 アジア タイ・シンガポール 等
年間生産能力	約 75,000台
連結従業員数	約 5,600名

主な生産・販売拠点



2017年3月期第2四半期の決算概要

取締役社長 二ノ宮秀明

決算の概況

市場環境

世界経済は、中国・新興国の成長鈍化、英国のEU離脱決定による欧州経済の悪化懸念、また米国では大統領選を控えて先行き不透明感を強めていた状況であった。

日本経済は緩やかな回復傾向であったが、為替相場と株式市場の不安定な動きなどにより、国内景気は先行きが見通せない状況であった。

当社連結業績の概要

国内では、前期のディーゼルエンジンフォークリフトの第4次排気ガス規制前の駆け込み需要の反動があったことや、熊本地震により部品調達先が被災した影響でバッテリーフォークリフトの生産調整を行なったことにより売上高減少。さらに、新システム開発費用増加などにより営業利益が減少。

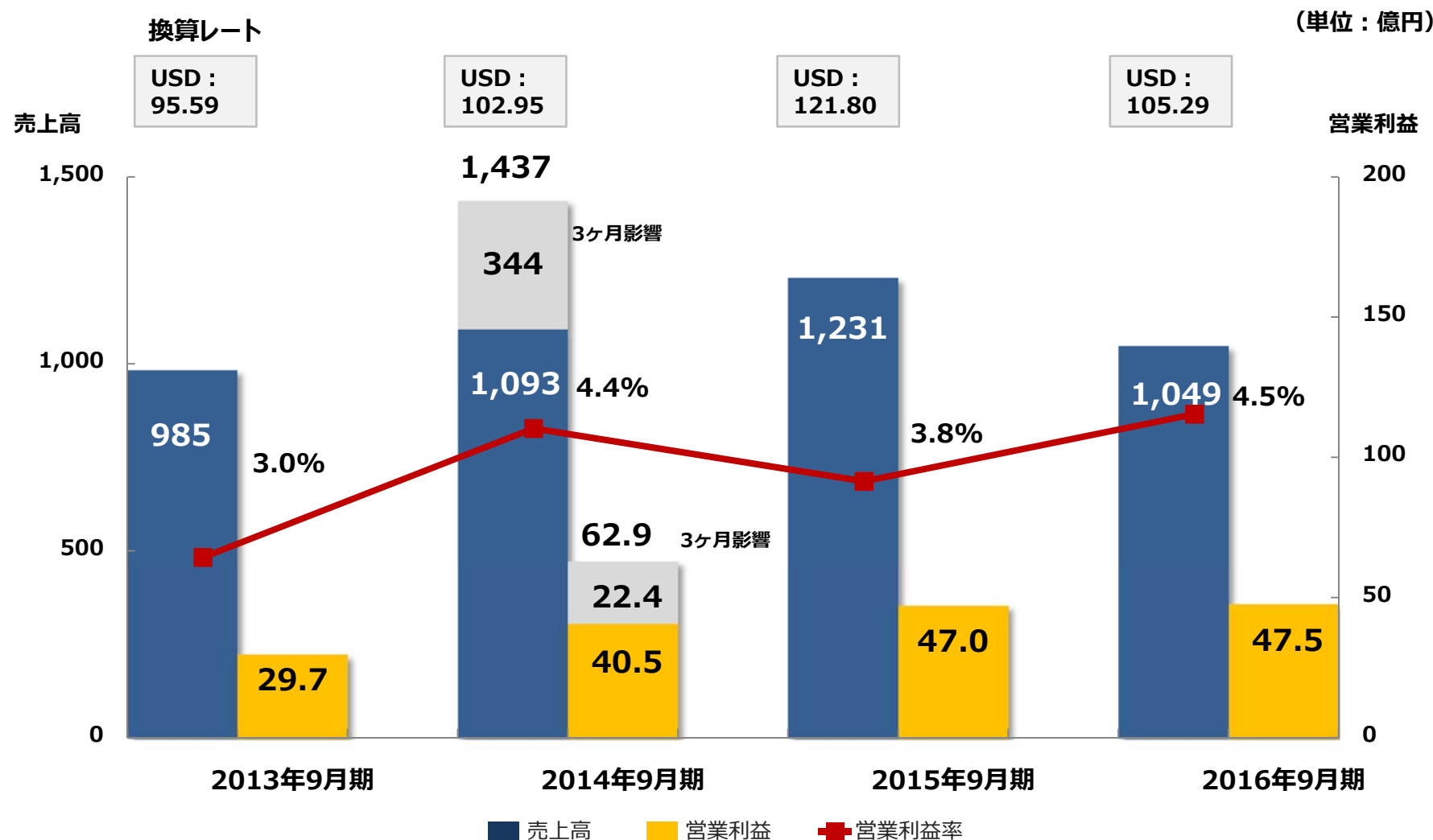
海外では、円高による為替換算影響により、売上高が減少したが、利益面では、人民元安による中国子会社の採算向上や、欧州事業の改善により好調に推移。また、原価低減、経費削減への取組み強化を実施。

一方、ユニキャリアの株式取得に伴う持分法投資損失により、経常利益及び当期純利益減少。



売上高	: 1,048億9千2百万円	前年同期比 ▲182億3千8百万円 (14.8% 減)
営業利益	: 47億5千百万円	前年同期比 +5千2百万円 (1.1% 増)
経常利益	: 25億8千3百万円	前年同期比 ▲18億円 (41.0% 減少)
当期純利益	: 7億6千2百万円	前年同期比 ▲16億8千万円 (68.7% 減少)

1. 業績の推移



※2014年9月期連結累計期間は、決算期変更の経過期間であったことから、当社及び従前の決算日が3月末日の連結子会社は6ヶ月間、決算日が12月末日の連結子会社は9ヶ月間を連結対象期間とした、変則的な決算となっています。

2. 連結財務諸表の概要

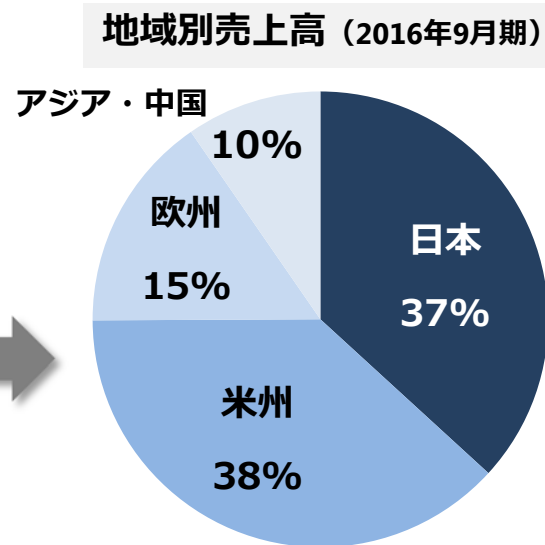
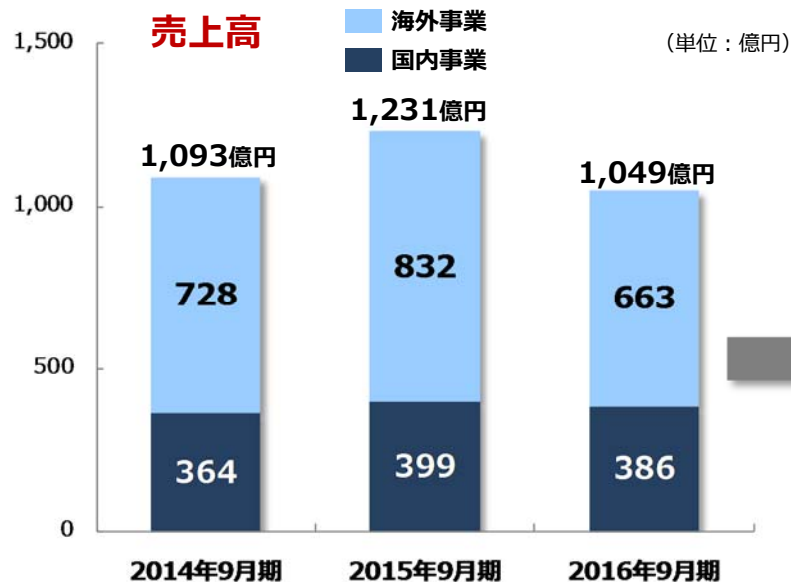
(単位：億円)

項 目	2015年9月期	2016年9月期	前年同期比増減	
売上高	1,231	1,049	▲182	▲14.8%
営業利益 (営業利益率)	47.0 (3.8%)	47.5 (4.5%)	+0.5	+1.1%
経常利益 (経常利益率)	43.8 (3.6%)	25.8 (2.5%)	▲18.0	▲41.0%
当期純利益 (当期純利益率)	24.4 (2.0%)	7.6 (0.7%)	▲16.8	▲68.7%

※2016年9月期からUCを持分法で取込。営業外損失にて持分法投資損失を▲16.3億円計上

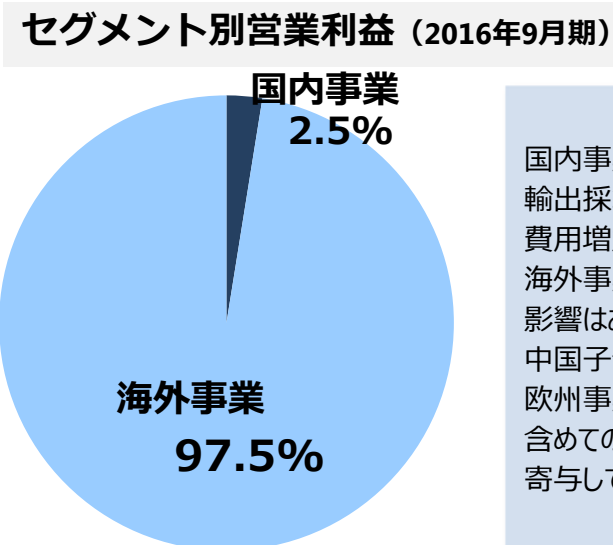
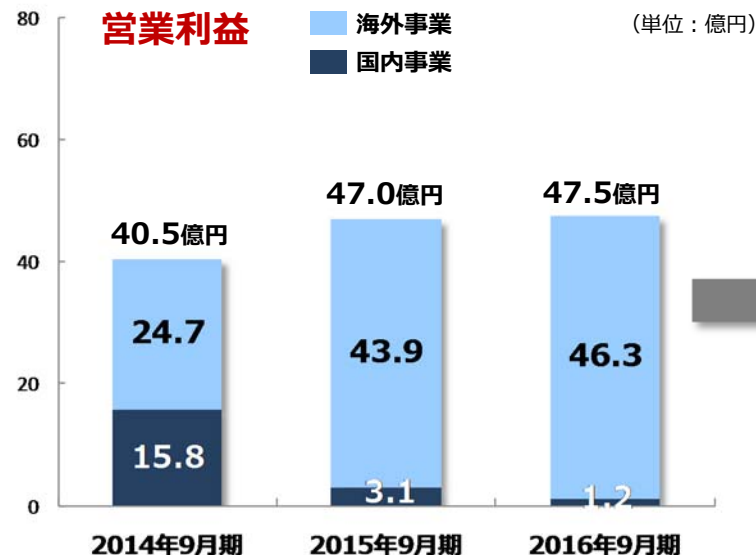
項 目	2015年9月期	2016年9月期	前年同期比増減	
総資産	1,674	1,879	+205	+12.2%
総負債	1,085	1,352	+267	+24.6%
純資産	589	527	▲62	▲10.5%

3. セグメント別業績



国内事業セグメントは、前期の第4次排気ガス規制前の駆け込み需要が剥落したことに加え、熊本地震の影響で生産調整を実施したことで減収となった。

海外事業セグメントは、前期の北米の港湾スト正常化による売上増の反動に加え、急激に進行した円高により、在外子会社の売上高の円貨換算額が目減りし減収となった。



国内事業セグメントは、円高による輸出採算の悪化、新システム開発費用増加等が響き減益となった。

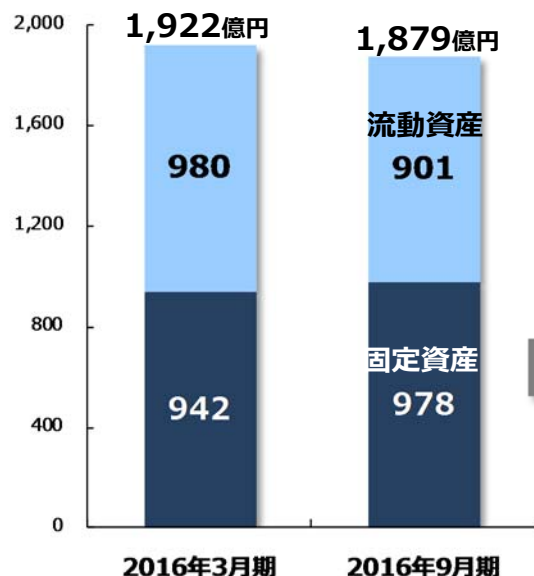
海外事業セグメントは、円高による影響はあったが、人民元安による中国子会社の輸出採算性向上、欧州事業の改善、および他地域含めての原価低減、経費削減が寄与して増益となった。

※2014年9月期実績は決算期統一影響（2014年1-3月）を控除しています

4. 連結貸借対照表

(単位：億円)

資
産

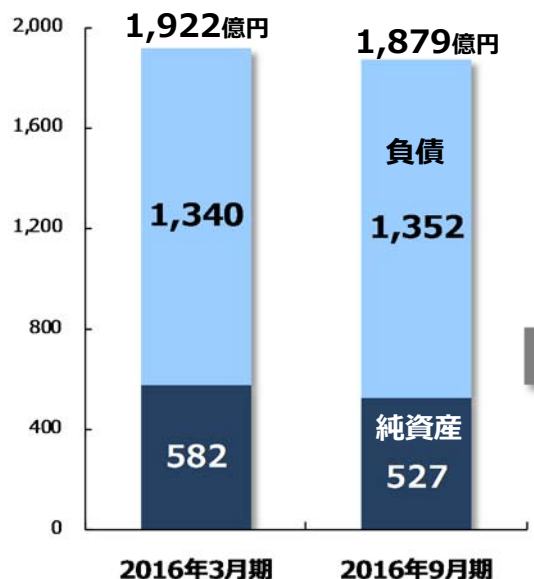


主な増減

項 目	2016年3月期	2016年9月期	増減
流動資産	980	901	▲79
(有形・無形固定資産)	447	429	▲18
(投資その他資産)	495	549	+54
固定資産計	942	978	+36
資産合計	1,922	1,879	▲43

流動資産は主に円高による換算差で売掛債権等が減少した
投資その他の資産はユニキャリア関連会社への出資により増加した

負
債
／
純
資
産



主な増減

項 目	2016年3月期	2016年9月期	増減
流動負債	1,197	1,149	▲48
固定負債	143	203	+60
負債合計	1,340	1,352	+12
純資産合計	582	527	▲55
負債・純資産合計	1,922	1,879	▲43

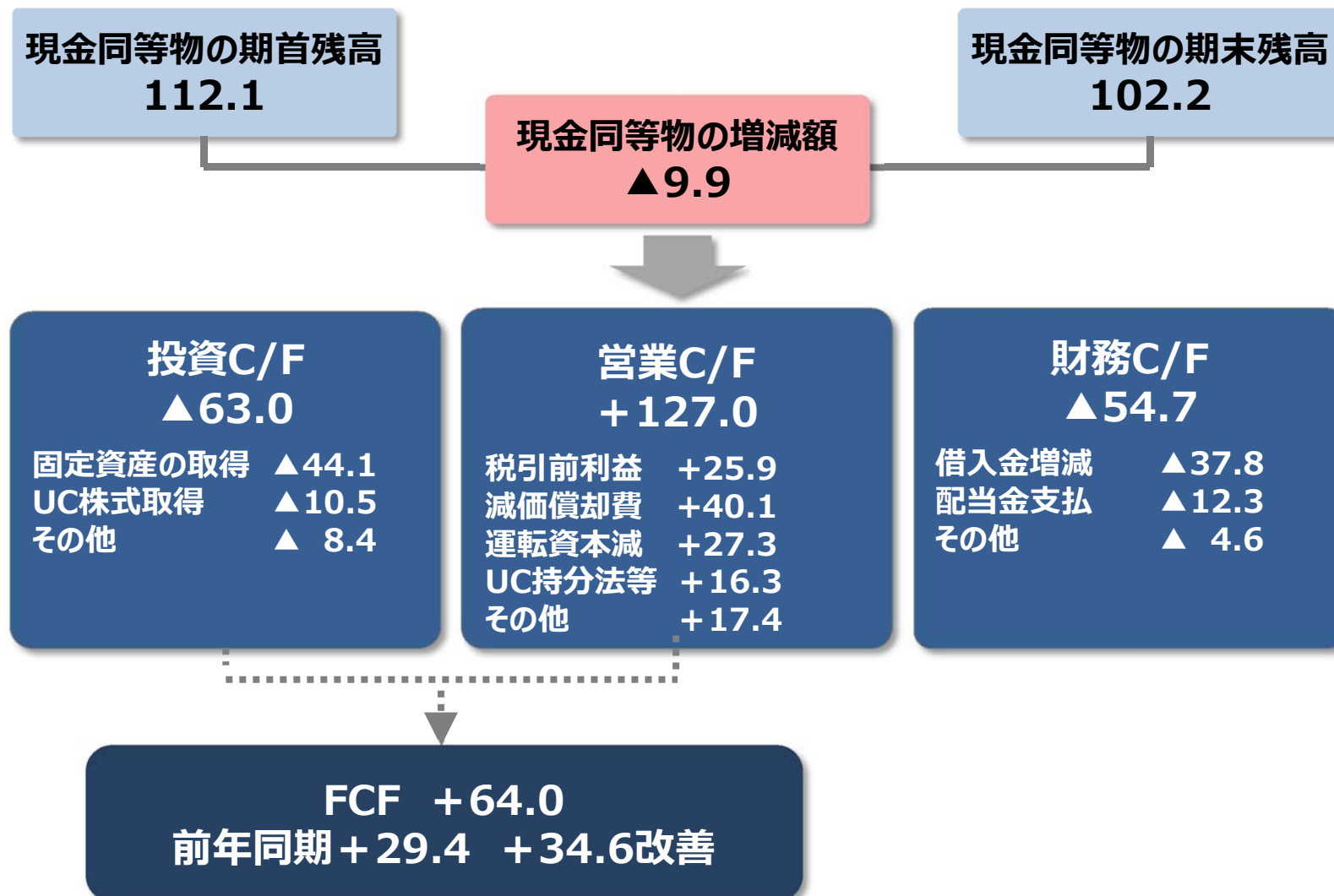
流動負債は円高による換算差に加え、借入金が減少した
固定負債は米国ユニキャリア社への出資未払金により増加した
純資産は円高により為替換算調整勘定が悪化し減少した

5. 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

フリー・キャッシュフロー(FCF)は前年同期の+29.4億円から+34.6億円改善

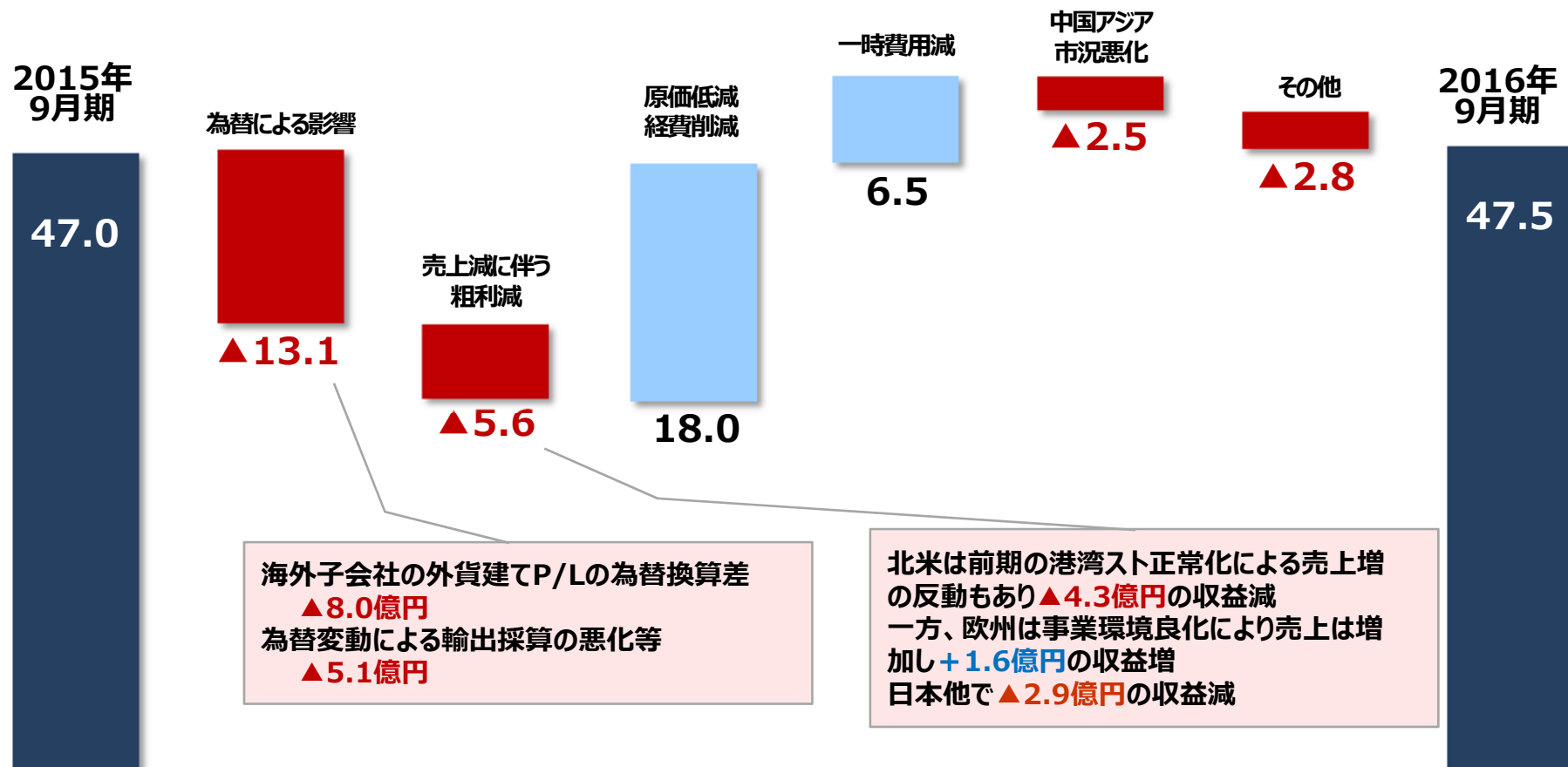
※売掛債権や買掛債務等、運転資本の良化により改善した



6. 2016年9月期 連結営業利益（実績）増減要因

急激に円高が進んだことで収益が悪化したものの、欧州での業績改善、元安による中国子会社の採算良化、他地域を含めた原価低減、経費削減が寄与し、前年同期比101%と増益を確保した

単位：億円



7. 主な経営指標

項目	指標	算式	2015年9月期	2016年9月期	コメント
総合	総資本利益率 (ROA)	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{総資本}}$	3.0%	0.8%	116期はユニキャリアののれん相当の償却による持分法損失により当期純利益が減少したことでROA, ROEが低下
	自己資本利益率 (ROE)	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$	8.6%	2.8%	
収益性	売上高営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}}$	3.8%	4.5%	116期は資材費低減等が寄与したことで売上高営業利益率は良化したものの、ユニキャリアののれん相当の償却による持分法損失を営業外損失で計上したことで、売上高経常利益率、当期純利益率が前期より低下
	売上高経常利益率	$\frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}}$	3.6%	2.5%	
	売上高当期利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$	2.0%	0.7%	
効率性	総資本回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$	1.5回	1.1回	
	売上債権回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{売上債権}}$	6.0回	5.3回	
	棚卸資産回転率	$\frac{\text{売上原価}}{\text{棚卸資産}}$	4.3回	4.4回	
安全性	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$	34.2%	27.3%	円高による為替換算調整の悪化により純資産が減少
	D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{株主資本}}$	0.8倍	1.3倍	
株主関連	1株当たり利益 (EPS)	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済株式数}}$	45.8倍	14.3倍	ユニキャリアの持分法損失により、EPS低下
	株価収益率 (PER)	$\frac{\text{株価}}{\text{1株当たり利益}}$	10.3倍	46.7倍	115期上期末：470円 116期上期末：669円
	株価純資産倍率 (PBR)	$\frac{\text{株価}}{\text{1株当たり純資産}}$	0.9倍	1.4倍	EPSが低下した一方で、株価が上昇したため指数は低下

8. 2016年上期トピックス

ユニキャリア株式の追加取得

- 経営統合を前提とした株式取得
- シナジーの早期創出と成長スピードの加速を実現



リーチ型フォークリフト「Platter」が機械工業賞受賞

- 「走る」「曲がる」「止まる」の基本性能の向上
- 安全性・操作性・省エネのさらなる改善



「国際物流総合展2016」に出展

- 水素を動力源としたコンセプトカーの燃料電池車等を出展
- 『ロジスティクスを、極める』をスローガンにデモンストレーションを実施



米国市場でウェアハウス新機種を投入

- Jungheinrich社との協業による高揚高のオーダーピッカー車を北米市場で新発売



9. 2017年3月期通期業績見通し

(単位：億円)

項 目	2016年9月期 (実績)	2017年3月期 (予想)
販売台数	29,209台	65,000台
売上高	1,049	2,350
営業利益 (営業利益率)	48 (4.5%)	110 (4.7%)
経常利益 (経常利益率)	26 (2.5%)	85 (3.6%)
当期純利益 (当期純利益率)	8 (0.8%)	45 (1.9%)
1株当り配当	—	11円

※上表の業績見通しはユニキャリアを持分法適用関連会社として策定している。

2017年1月に予定通りMHIから持分取得して完全子会社にした場合、第3四半期までは持分法適用関連会社、第4四半期から連結子会社として扱うことになるが、弊社連結決算に与える影響については現在精査中であり、開示すべき事項が明らかになり次第、速やかに公表する予定。

(参考) ユニキャリアの概要

商 号	ユニキャリア株式会社
本社所在地	神奈川県川崎市幸区新小倉1番2号
設 立	1949年2月
資 本 金	97億60百万円（2016年3月31日現在）
代表取締役社長	志岐 彰
事 業 内 容	フォークリフト、コンテナキャリア、トランスファークレーン等 各種運搬機械の開発・製造および販売
工 場	日本、米国、スウェーデン、スペイン、中国（生産能力55,000台）
連結売上高	1,962億円（2016年3月期）
連結従業員数	約 5,700名（2016年3月31日現在）

(参考) ユニキャリアのネットワーク



(参考) ユニキャリアの主な製品



小型エンジン式フォークリフト



大型エンジン式フォークリフト



港湾荷役システム



カウンターバランス型
バッテリー式フォークリフト



リーチ型
バッテリー式フォークリフト



ショベルローダ

注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

お問い合わせ先

ニチユ三菱フォークリフト株式会社
総務課 松浦、小泉

〒617-8585
京都府長岡京市東神足2-1-1
TEL : 075-951-7171 FAX : 075-955-3797
<http://www.nmf.co.jp/>